

日本最北の地で 絶景の「白い道」を体感



小川 浩一郎 (おがわ こういちろう)

(株)ジオ (THE-O) 代表取締役

1980年札幌市生まれ。2001年エコ・ネットワーク代表代行、13年北海道科学大学客員准教授。札幌市南区常盤で育つ。『フットパス』をキーワードに市内、道内、国内で普及活動、ウォークイベントを実施し、ワールドウォーカーとして世界の「フットパス」を歩いている。「歩く」ことを通じて自然あふれる都市・札幌を観光客へ伝えるべく奮闘中。著書に「北海道フットパスガイド①」「北海道フットパスガイド②」。

日本最北端からスタートするフットパスコース

稚内市は北海道のみならず日本最北の地として、その名を知られています。利尻島や礼文島の玄関口だけでなく、宗谷海峡を挟みサハリンも目と鼻の先です。1万年前の氷河期から形成された「宗谷丘陵の周氷河地形」や「北防波堤ドーム」は北海道遺産にも登録されていて、それらを巡るフットパスのみならずサイクリングなども楽しめる地となっています。

ここ稚内市には4つのフットパスコースが設定され、バラエティに富んだ楽しみ方ができると人気を博しています。その中でももっともおすすめしたいのは「宗谷丘陵コース」です。稚内市から東へ進む、最北のさらに最北となる宗谷岬からスタートとなります。宗谷丘陵は稚内三大景勝地でもあり、天気恵まれればサハリンを望むこともできる地です。コースサインもしっかりと整備されており、それほど迷わずフットパスウォークを始めることができます。

しばらくは「宗谷周氷河ロード」と呼ばれている道を進みます。道の両面は有名な宗谷牛の放牧地となり、黒毛の牛たちが優雅に草を食んでいる姿を見ながら歩ける、北海道らしいフットパスです。遠景はそれこそ周氷河地形が広がり、日本では北海道以外ではお目にかかることはできないでしょう。アイルランドやスコットランドの景観に近いものがあり、本場英国のフットパスの雰囲気を味わいながら歩くことができます。牧草地の中を歩けるようになれば、さらに素晴らしいルートに進化することでしょう。

白と青と緑のコントラストが楽しめるコース

ルートの途中からは周囲に現れる50基以上の風車群を望めます。絶景の周氷河地形の中で放牧された牛たち、そして風車群とまだまだ北海道らしいフットパスが続きます。そしていよいよ後半部から「白い道」が始まります。廃棄されるはずだったホタテの殻を道に敷き詰めているフットパスです。舗装路よりも足への



利尻島を望める白い道





負担は少なく、また天気の良い日には太陽光に反射し、白い殻がさらに美しく輝いて見えます。青い空と放牧地の緑、そして白い道と色のコントラストも楽しめます。今流行りのインスタ映えすること間違いなしです。しばらくこの白い道を堪能しながら進めばゴールの宗谷歴史公園に到着します。コースの最後部では利尻岳を望めるポイントもあり、絶景を存分に楽しめるコースであることは間違いありません。5kmのショートコースと10kmのロングコースが整備されており、紹介したのはロングコースです。時間に余裕がなかったり、体力に自信がない場合は、比較的誰でも歩くことができるショートコースをおすすめします。ショートコースでもコンパクトにルートの魅力が詰まっているのは嬉しい点です。

北海道遺産を楽しめるフットパス

稚内フットパスのもうひとつのコースもご紹介します。宗谷丘陵コースとはまたジャンルが異なるフットパスの「稚内公園コース」です。3kmでショートの「氷雪の門コース」と、5.8kmでロングの「百年記念塔コース」があります。どちらも稚内駅を起終点とするためアクセスしやすいのが特徴のひとつで、氷雪の門コースは氷雪の門までの往復となり、百年記念塔コースは北海道遺産の「北防波堤ドーム」を楽しめるルートです。

日本最北の駅をスタートし、稚内公園方向へ進みます。稚内の街並みや飲食店も楽しめるのは、地域を再発見できるチャンスにもなります。北門神社を通り、公園まで登っていくと稚内市街地はもちろん、宗谷丘陵やサハリンの島影、稚内港を一望することができるポイントにもなっています。氷雪の門までたどり着いたら、ショートコースは引き返します。ロングコースはこのまま道なりに進み百年記念塔を目指します。百年記念塔までの道には多くの植物が生育し、高山植物を観察できる時期もあります。3つの貯水池を通り過ぎると市街地に行き当たり、すぐに北防波堤ドームで

す。なだらかな曲線が美しく、古代ローマを思わせるような建築物になっています。先に紹介した宗谷丘陵コースが自然の作り出した景観や遺産を楽しめるフットパスとするならば、こちらのコースは自然だけではなく地域や人も紡いできた歴史や景観、遺産を楽しめます。稚内へ行くのなら是非、この2つのルートを歩いてみることをおすすめします。全く異なった稚内の魅力に出会えるはずです。

10月5日、6日には「第30回全道フットパスの集いinわっかない」が開催されました。これを書いている9月の中旬の時点でも多くの申し込みがあると聞いています。もちろん前述した2つのルートを歩きますし、交流会はなんと北海道遺産の北防波堤ドームで野外バーベキューを予定しています。宗谷海峡で捕れた新鮮な海の幸や稚内の名物が多くでることでしょう！フットパスを歩き、地域と人がつながる素晴らしい「集い」になると予感しています。

稚内フットパスはコースサインやマップがしっかりと整備されているので、観光で訪れるとしても歩きやすいのは嬉しいポイントです。またWEB上でもコース紹介やマップが掲載されていますので、事前にどこを歩くか計画を立てて行くこともできます。稚内観光協会へ問い合わせれば、イベントやコース周辺の宿泊場所も紹介してくれます。フットパスを歩く上でしっかりとした土壌ができているので、フットパス自体の魅力がさらに高まっているといえるでしょう。稚内の魅力をふんだんに詰め込んだコース設定でさらに他にも2つのルートもあるので、道北で最大のフットパス先進地となっています。これからの時期は少し気候が厳しくなりますが、春や夏など最適のシーズンに是非訪れてみるといいのではないのでしょうか。日本離れた北海道の素晴らしい景観や地域がフットパスを歩くことでさらに楽しめることを、稚内フットパスでは実感できるでしょう。



稚内公園からは市街地、港、宗谷海峡を見渡せる



放牧地と風車群